

閲覧用

河内長野市第5次総合計画基本計画<素案>に対するパブリックコメント意見一覧

【概要】

平成27年11月27日（金）～平成27年12月28日（月）まで、市内の主な公共施設及び市ホームページにおいて公表し、河内長野市第5次総合計画基本計画<素案>に対するパブリックコメントの意見募集を実施しましたところ、22人より43件の貴重なご意見をいただきました。これらのご意見と、ご意見に対する市の考え方は下記のとおりです。

◆分類について

変更	ご意見を受けて基本計画に変更を加えました。	3件
包含	ご意見の趣旨等は基本計画に含まれています。	5件
参考	ご意見の趣旨等は基本計画に含まれていますが、ご提案内容は今後の取り組みの参考等とすべきと考えます。	35件
その他	ご意見につきましては、基本計画に反映しないものとします。	0件

■ 基本計画全般について（4件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
1	参考	全体	<p>はじめに</p> <p>河内長野市の現況を観察してみた時、人口の減少、商工業の停滞、税収の停滞等、どの分野においても好ましからざる状況が感じられる。</p> <p>こうした現況を見たとき、我々市民としては、今回の総合計画について、少なからず、その将来性について大きな期待を抱かざるを得ないものである。</p> <p>こうした期待を抱きながら、ここに記された素案を見ると、この素案が、完成案とどう異なるかはわからないが、内容があまりにも</p>	<p>本基本計画の記載内容については、それぞれの分野及び地域別の計画の主な取り組みの方向性を示しており、具体的な取り組みについては、この計画に基づき策定する実施計画において定めることとしています。</p> <p>また、市民の皆様との協働を想定している具体的な取り組みについては、上述した実施計画、及び各分野における個別計画（地域福祉計画、子ども・子育て支援事業計画等）に基づき推進していくこととしています。</p> <p>① について、「ネットワーク型コンパクトシティ」</p>

			<p>大雑把なものであること、加えて内容が現状の追認に終始しているものであることに驚いているのが正直な感想です。</p> <p>こうした計画書はこうしたものだ、と言ってしまえばそうかも知れないが、市民、それもまちづくりに携わっている者からすれば、少なくとも、そうした人たちが、協働と言う立場から、何らかの行動計画の指標、お手伝いを考えられるものである必要があるのではないだろうか。</p> <p>(計画書全般について)</p> <p>① この報告書では「ネットワーク型コンパクトシティ」を大前提としているが、これとても、その地区を設定したのみであり、各地区の方向性・役割等は何も設定されておらず、各地区任せとなっており、何の指標にもなっていない。</p> <p>② さらに言うならば、多くの項目について現状についての分析が、極めて甘いものであり、とても現状を表しているとは思えない。</p> <p>③ 理想が高いことは「絵に描いた餅」と言われるかもしれないが、日本のみならず、河内長野としても、通常の経済成長社会を通り過ぎ、新たな社会構築を求められている現代において、「高い理想を持たなくて、次のステップが踏めるか」を考えさせる内容であると感じる。</p> <p>④ 人口の減少、住民の流出を、また、観光振興を重要課題と設定しながら、外部に対する「市の魅力アピール」がほとんど感じられない計画書となっている。</p>	<p>については、基本計画ではコンパクトシティの考え方を示しており、具体的な土地利用の方針や地域別の計画については、別に策定する都市計画マスタープランで示していきます。</p> <p>② について、現状分析については、紙幅の都合により、詳細に記載できていない点もありますが、事業実施に向け、さらに現状分析を行いながら、施策展開を図ってまいります。</p> <p>③ について、本基本計画については、将来都市像の実現に向け、財政面も考慮し、実現性・実行性の担保に配慮しながら作成しています。</p> <p>④ ついて、84 ページ「施策No.35 都市ブランドの構築と魅力発信」として、本基本計画より新たに項目を立てて取り組んでいくこととしており、本市の地域資源や定住環境の良さ、観光資源等、総合的に発信し、効果的にアピールしてまいります。</p>
2	包含	全体	第1章関連～第4次計画の成果・問題を第5次計画の策定、計画達成に活かす。	本基本計画を策定するにあたり、各分野について第4次総合計画の評価・検証を行っており、その結果を

			<p>第4次総合計画についてPDCAサイクルの結果の概要を明示し、第5次総合計画の策定、実現に活かす決意を表明する記述が必要ではなかろうか。</p> <p>(視点) 第4次総合計画は目標どおり達成できたのかどうか。</p> <p>達成できなかった理由(計画上の問題、戦略上の問題、実行上の問題の解決不可等)</p>	<p>集約し、現状・課題、方向性を記載したものを公表しています。また、総合計画審議会において第4次総合計画の検証を行いながら、議論を重ねるとともに、基本構想の第1章第1節「計画策定の目的」において、「第4次総合計画から引き継ぐ課題への対応を含め策定する」ことを明記しています。</p>
3	参考	全体	<p>実効性を高めるため数量的な目標を掲げた分野別「アクションプラン」を別途作成する。</p> <p>全計画を通して内容が抽象的、定性的である。第4章の分野別計画においても定量的な目標が殆ど定められておらず、また、第2章(人口・産業)、第3章(財政計画)との関係づけも明確ではない。これでは、市の一体的スムーズな活動ができずもっとも重要な人口減少の抑制、財政健全化は難しいと思われる。</p> <p>それには、具体的で可能な限り数値目標を定めた「アクションプラン」を、別途、分野別計画の付属資料としての中に定めることを提案する。</p>	<p>第4章の分野別計画において、各施策に「住みよさ指標」として数値目標を設定しており、その達成に向けて、ご意見の通り、アクションプランとして位置付けられる「実施計画」(3年計画で1年ごとに見直し)を別途策定していきます。</p>
4	参考	全体	<p>第4章 分野別計画 第3節 分野別計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間目標値として5年後の数値が設定されています。5カ年計画の中間値としては相応しくないのでは。細かく1年単位にするか、按分比率なりを決めないと評価できないのではないかと</li> <li>・取組みとして 新規、充実、継続は段階的に発展していくとしていますが、年を重ねることに毎年継続となるようでは「行動目標」にはなりにくいのでは。オプションとしてもう少し具体的な取組みも記述して頂けると分かり易いです。実施計画からでも良いと思い</li> </ul>	<p>本基本計画は、前期5年、後期5年という期間を設定しており、中間年を5年後としています。評価・検証にあたっては、5年後の目標値に対して、毎年、進捗状況を評価しながら進行管理を行ってまいります。</p> <p>また、ご意見の通り、年度ごとの取り組みや具体的な取り組みについては、実施計画において定めていきます。</p>

			ます	
--	--	--	----	--

■ 第2章 第1節 将来人口について（3件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
5	参考	2	<p>市の「広報」では、殊のほか「定住人口、財政の課題」については注視し読みます。この度、平成27年11月27日、第5次総合計画基本計画（素案）のパブリックコメント実施案内と意見募集を頂きました。</p> <p>1. 定住人口</p> <p>定住人口は「市の総合パワー」・「市の経済・財政の安定の源泉」。将来人口・平成37年度末『10万人』（想定）。人口推移：1999年・122,655人、2008年・116,405人、2015年10月31日現在「109,646人」。年齢構成（比率）は、少子・高齢化、生産年齢（15～64歳）比に変化をもたらした。平成37年度以降、長期的な将来人口展望については、河内長野市「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に定める由。</p> <p>現在の命題、市の「経済・財政の安定」は、定住人口の維持（転出の抑制、転入促進）、産業振興・物づくり（仕事と雇用）の創生、観光産業の振興、本市への通勤勤務者で成り立っている。河内長野市には希望の「仕事」は少ないのか。河内長野の親元から小・中学校に通った多くの子どもは巣立って行った。これからも続くだろう。彼らは異郷で暮らす。散歩で私は、高齢のひとり住まいの母に出会います。更なる市の興隆を、*観光産業の振興（観光資源は豊富）、*河内長野駅前または三日市駅前に4年制大学の誘致。両駅前は交通の便も良く、商業施設もあり、学生の若さと活力と購買力を加え</p>	<p>ご意見いただいた、産業振興による仕事づくり、観光振興、商業施設の充実等の取り組みの方向や施策展開などについては、基本構想、基本計画に示しておりますが、今後、いただきましたご意見を参考に、具体的な取り組みの検討を進めてまいります。</p>

			て、新しい型のまちづくりができる。2015年10月31日現在「109,646人」の維持は困難。	
6	参考	2	<p>中小企業に力を入れ地方活性化を望み、女性が安心して働ける環境作りをする。</p> <p>人口減少の歯止めとしては若年層の転出防止に努める。</p> <p>結婚しても住みなれた当市で永住出来安心して生活・子育てできるまちづくりを行政一体となって指導する。</p> <p>家庭内で子供との対話を密にし、非行防止に努める。</p> <p>古代の歴史文化遺産が多く犯罪もなく豊かな市である。このような恵まれた町へ他府県より転入されることを期待する。</p>	<p>ご意見については、基本計画の分野別計画において、それぞれの分野で含まれており、まち・ひと・しごと創生総合戦略にも位置づけを行っていますが、今後いただいたご意見を参考に、産業の振興や就労・労働環境の充実、子育て支援の推進等を図るとともに、本市の豊かな資源や環境をPRし、定住・転入の促進を図っていきます。</p>
7	変更	2	<p>第2章関連～定住人口について計画人口と戦略人口との関係を明確化すべし</p> <p>(1) 想定定住人口 10 万人が妥当かどうかについて専門家による検討が必要では。本計画では 2025 年度末(平成 37 年度末)の定住人口を 10 万人と想定しているが、過去の長い年月にわたる統計ではなく、直近数年の統計を参考にして想定すべきではないか。</p> <p>例) 想定根拠を直近の平成 25 年度末人口(実績値 112,884 人)と 27 年度 11 月末人口実績値(109,335 人)から、この 23 ヶ月間の減少人口は 3,549 人で、月間平均減少は 154.3 人(近年の年間平均減少人口 1,852 人)となる。</p> <p>以上から、平成 27 年 12 月末の定住想定人口は 109,181 人、10 年後の平成 37 年度末の定住想定人口は 90,661 人と想定される。</p> <p>(2) 計画では想定定住人口 10 万人と人口減少抑制戦略の展開・成果等によって抑制できる減少抑制人口数の関係が明瞭ではない。</p> <p>例) 上記(1)の数値を参考に関係づけると次式のようなになる。</p>	<p>学識経験者や関係団体、市民代表からなる総合計画審議会において、検討を重ね、基本構想を策定しており、その中で、総合計画の終了年度である平成 38 年 3 月末の定住人口について、平成 21 年 3 月末から平成 26 年 3 月末の人口推移に基づき、96,742 人と推計しておりますが、出生率の向上や転出抑制・転入促進、健康づくりなどの施策を進めることで、平成 38 年 3 月末の人口を 10 万人と想定しています。</p> <p>なお、想定人口の根拠については、以下の通り明記することとします。</p> <p>【想定人口の設定根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率を段階的に上昇させ、平成 37(2025)年で 1.80 と設定。</li> <li>・若い世代の転出超過の改善をめざし、子育て世代(25～39 歳)の移動率を 1/2 に縮小して設定。</li> </ul>

		平成37年度 想定定住人口 90,661人+9,339人(抑制戦略効果) →平成37年度末の定住人口10万人 もっともこの効果は達成不可?	・府内トップレベルの生存率をめざし、高齢層の数値を設定。
--	--	---	------------------------------

■ 第2章 第2節 都市空間形成について(2件)				
番号	分類	ページ	ご意見(の概要)	市の考え方
8	包含	7	<p>集約連携都市の構築という考え方に賛成です。今までの様な画一的な施策(投資)ではいけないと思います。</p> <p>丘の生活拠点は、コノミヤという生活の中心があり、その中心をさらに発展育成する事で町が生き残れる可能性が出てくると思います。そのためにも、今建設中の農道の1日も早い完成が望まれます。</p> <p>新しい道は市の南部の町を強く結び付けてくれると同時にすばらしい自然とのつながりを今まで以上に保証してくれるでしょう。</p>	<p>ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けて、今後、各地域や拠点の特性を活かしながら、市全体の住みやすさの向上を図っていきたいと考えており、ご意見のふるさと農道についても、本市のネットワーク構築の重要な位置づけであることから、早期実現に向けて大阪府と協議・調整を図りながら事業推進に努めてまいります。</p>
9	参考	9	<p>(第2章について)</p> <p>①「まち」の土地利用</p> <p>河内長野駅前地区については、現代までの市の大玄関であり、観光客にとっては、市観光・行楽の足掛かりとなる地区である。そこにはいろいろな役割があり、外部の人の要望もある。然るに、この計画書では、そうした要望に対する地区の在り方がどこにも示されていないのは問題である。また、千代田、三日市の地域拠点の在り方についても同様と考えられる。</p> <p>②「里」の土地利用</p> <p>里の拠点設定については、余りにもいい加減である。「里」をどう考えているのか解らないが、河内長野市では多くの地区がこの「里」と考えられる地区であり、そのことが市の住環境の魅力と</p>	<p>①について、9ページ「2.土地利用の方針」の「(1)まちの土地利用 ① 拠点」において、ご意見いただいた河内長野駅前、及び千代田、三日市駅前の機能について記載しています。</p> <p>②について、ご意見のとおり、「里」の住環境については、本市の大きな魅力であるとともに、観光面でも重要なエリアであると考えています。そのため、地域活性・交流拠点の充実を図り、市全体の魅力発信の中心的な役割を果たしていく拠点と位置付けていきます。</p> <p>なお、これらの拠点の機能や整備方針等に関する具体的な内容については、別に策定する都市計画マスタ</p>

		<p>なっている。この拠点設定には、市が苦勞して造ったことから地区指定していることが伺われるが、この施設については、一方面的のサービス施設であり、「里」を代表する交流施設ではない。市の活性化を考えれば、こうした施設は、川上地区、小山田地区など最低3か所は必要な施設であり、それが本当の「里の拠点」ではなかろうか。また活力創造ゾーンを苦し紛れに設定しているようであるが、ここも「里の拠点」が必要であることから、そうすればよいのではないか。</p>	<p>ープランで示していきます。</p>
--	--	--	----------------------

■ 第4章 分野別計画 基本目標1「安全・安心・支えあい」の暮らしやすいまち について（4件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
10	参考	20	<p>第4章 分野別計画 第13節 施策No.3(1-1-3) 防犯対策の推進</p> <p><b>【現状と課題】</b></p> <p>当市の犯罪件数が減少傾向となっており、府内でトップレベルの犯罪の少ない都市であると言う事が、逆に油断の元である。</p> <p>子供達を狙った犯罪がますます悪質非道なものとなっており、社会問題化しております。そこで国、町の‘宝’である子供達を非道な犯罪から守る事が国又は町のすこやかな発展を願う大人達の勤めであろうと思われま。</p> <p><b>【対策】</b></p> <p>①児童生徒の通学時の交通安全とクロスしますが、‘見守り隊’の拡充により、不審者発見等で未然に犯罪を防止する。</p> <p>②防犯協議会、自治会、まちづくり協議会、行政との協議により子供達を児童下校時（PM3:00～6:00 頃）に集中して行えるよう、また場所も公園、暗くなった寂しい通学路を重点的に散歩してもら</p>	<p>犯罪から子どもを守ることはもちろん、市民だれもが安心して暮らせる地域づくりが重要であると考えております。子どもの見守りについては、「施策No.14 青少年の健全育成の推進」や「施策No.3 防犯対策の推進」において、市民との連携のもと取り組みを進めていきます。今後、いただきましたご意見を参考に、具体的な取り組みの検討を進めてまいります。</p>

			うよう回覧等でお願ひする。	
11	参考	22	<p>第4章 分野別計画 第3節 施策No.4(1-1-4)交通安全対策の推進</p> <p>【現状と課題】</p> <p>児童生徒の通学時の‘見守り隊’継続について、隊員の高齢化が進み、継承者不足が叫ばれつつある。それにより通学時の交通安全がおろそかになり、重大な交通事故の恐れがある。持続的な‘見守り隊’員の入れ替り及び補填はこれからの時代を担う子供達を守り、安全、安心のまちづくりに欠かせないものと思われまゝ。</p> <p>【対策】</p> <p>①自治会、まちづくり協議会、ボランティア団体、市役所、警察での定期協議により隊員募集方法の検討を行う。</p> <p>※例 他のボランティア団体での転任の希望等を探る。</p>	<p>ご意見の「対策①」に対しては主な取り組み1.交通安全意識の向上の「地域主体の交通安全活動の取り組みへの支援」に含みます。なお、見守り隊につきましては、防犯上の役割も担っていることから、今後は、いただきましたご意見を参考に、地域や関係団体との連携を行いながら取り組みの検討を進めてまいります。</p>
12	参考	28	<p>施策7, 23, 36(共通)快適な生活環境の確保について</p> <p>ここでも書いて頂いているように、本市の高齢者比率は、極めて高いものとなって来ている。しかし、この数値は、必ずしも介護必要者が急増しているだけでなく、健康な高齢者もそれ以上に増加していることである。そしてこうした高齢者の多くは、労働業務から解放され、日頃日中の時間を持て余している現状がある。</p> <p>ある種の考え方としては、それはそれで善いのではとの考え方もある。しかし、この考え方に問題のあるのは、こうした日常を送っている人たちは、何らかの行動をしている人と比べて、認知症をはじめとした病気になりやすいことであり、市が懸念している健康保険財政に大きく影響することとなる。</p> <p>現代の高齢者社会では、老人会の平均年齢は70歳前後であり、</p>	<p>ご意見について、「施策No.7 高齢者福祉の充実」において、介護予防の充実を図るとともに、高齢者の生きがいづくりや社会参加を進め、高齢者の居場所づくりを行っていきます。また、主な取り組み「1. 地域における包括的なケア体制の整備」における「介護を担う人材の確保、育成」については、元気な高齢者が担い手となることも想定しています。</p> <p>ご意見を参考とし、今後の高齢者の増加に向けた対策の検討を進めてまいります。</p>

			<p>ボランティア団体でもそうした状態となっている。</p> <p>こうした事からここで考えなければならないのは、病人としての老人ばかりではなく、健康な老人の居場所（コミュニティの場）を考える必要があることであり、そのための居場所を作ることであると思う。</p> <p>現状として、くすのかホールなどがその役目を持っているが、制度と管理体制などによる運営の窮屈さから、自由で、楽しい居場所には程遠いものである。公民館やコミュニティセンターについて、制度・名目にとらわれるのではなく、河内長野市として独自の利用を考えた思い切った利用を考えるようにすべきである。</p>	
13	参考	34	<p>13小学校区の地域づくりの目標は特に目新しくなく、女性の活用を考えた場合、＜食の安全、安心を考える市民の会＞の立ち上げを提案します。</p> <p>高齢者、子育て、給食等、若い女性から高齢女性まで、伝統料理の伝承、研究等河内長野の魅力を発揮していただきたい。</p>	<p>地域別計画における地域づくりの目標については、市民参加による検討会議等における検討内容を踏まえて作成しています。いただいたご意見については、今後、各地域においてさらに検討いただくとともに、行政としても「施策No.10 健康づくりの推進と医療体制の充実」の中の主な取り組み「1. 生涯にわたる健康生活を支援する体制づくり」の中で参考としながら検討を進めてまいります。</p>

■ 第4章 分野別計画 基本目標2「育み・学び・思いやり」の質の高いまち について（4件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
14	包含	40	<p>施策No. 13 学校教育の充実</p> <p>「知・徳・体の調和がとれた『生きる力』をはぐくむ」とありますが、「共生」や「多様性」を加えることで、これからの時代にあった幅の広い教育を目指せると提言します。</p>	<p>「知・徳・体の調和がとれた『生きる力』をはぐくむ」前提として、「すべての子どもが共に学ぶことで、その能力や可能性を伸ばし」としており、ご意見いただいた「共生」「多様性」については、この考え方に包</p>

			<p>素案では従来通りの健康な子どもが規範になり、障がい者や病気がちな子ども孤立しがちな子どもへの目くばりが抜け落ちるような気がします。</p> <p>多様な考え方が必要です。いじめを減らし子供たち、障がいを持った子供たちが社会から排除されないために、多様性について学ぶことが、重要になると思います。</p>	<p>含まれていると考えています。今後についても、「豊かな情操と道徳心の向上」「人権尊重の精神の涵養」「支援教育の充実」などを進めることにより、「共生」や「多様性」の尊重のもと、『生きる力』をはぐくんでいきます。</p>
15	包含	40	<p>地域で子育て支援活動を実施中。不安で危険を感じる事が多い特に毎朝危険にさらされながら登校する通学路の整備が急務。児童が安心して通学し、学校では児童に合った寄添い教育が出来る先生には時間に余裕を。子どもは宝、そして先生も宝です。出生率の向上対策の一因となり転入促進にも繋がると思う。ぜひ宝に投資をお願いしたい。</p>	<p>ご意見について、通学路の整備は、「施策No.4 交通安全対策の推進」に含まれています。また、「施策No.13 学校教育の充実」において教育環境の充実を図っていきます。</p>
16	参考	40	<p>2. 第5次総合計画「基本計画」- 分野別計画と地域別計画</p> <p>私は現在、観光学会の会員です。来年、河内長野市の小学校区の「観光資源（伝統・伝説・民俗芸能等）」や、産業資源（産業振興に関わる資源）」探しの散策を計画していた。</p> <p>平成27年11月27日、第5次総合計画「基本計画」のパブリックコメントの実施案内と意見募集がありました。「基本計画」と「分野別計画」と、「小学校区ごとの地域づくりの方向性を示す地域別計画」で構成される由。</p> <p>これらの分野別計画と小学校区ごとの地域別計画（3頁4頁）を資料のひとつとして携え、市内を南北に鉄道が貫き、5つの谷や丘陵部を切り開いた住宅地があり、小学校区があり、南海高野線の無人駅で帰宅の小学生に出会ってから歳月は流れました。その駅・小学校区から「お宝」探しの散策をしたい。その小学校区には、どの</p>	<p>基本目標2については、「人を育む」ことに関連する項目となっており、ご意見の内容については、「施策No.13 学校教育の充実」などに含まれていると考えます。なお、大学誘致についても、ニーズ把握を行いながら誘致に努めてまいります。</p>

			<p>ような地域の「お宝」（伝統・伝説の民俗文化）（産業観光の資源）に出会えるかと深く興味を抱いています。</p> <p>① 分野別計画 - 基本目標 2（概要版：3 頁）は、教育関連項目に当ると思うが、大学を誘致するなど、小学校から大学までの教育環境を整えれば、他の市町村からの学生も増えるだろうと思う（昼間人口は増え、市の財源増加になるだろう！？）。</p> <p>② 地域別計画 - 地域別計画（概要版：4 頁）は、小学校区ごとの地域時特性を活かし、・・・10 年後の目指す地域の姿の実現に向けての資料である。大学誘致は交通至便な「河内長野駅または三日市町駅」の周辺あたりが最適と思います。</p> <p>今春・4 月、傘寿を迎えます「人生は旅（課題だらけの人生）」。 - 第 5 次総合計画基本計画（素案）を読みました。大変勉強になりました。大変有難うございました。</p>	
17	参考	52	<p>No 1 9 男女共同参画推進 取り組みについて</p> <p>「男女共同参画の視点を持った人材育成」が必要だと考えますので、明記の必要を感じます。</p> <p>くろまる塾、男女共同参画の講座あらゆる機会を活用し人を集めること。連続講座を開催し人材育成のきっかけを作り、学んだ人たちが、行政が支援しながら、まちづくり、防災さまざまな分野で活躍できるような仕掛けが必要だと思います。</p>	<p>ご意見いただいた内容については、「施策No.19 男女共同参画の推進」の主な取り組み「1. 男女共同参画の社会形成のための啓発に含まれていますが、これら取り組みについては人材育成を前提としています。</p> <p>また、学んだ成果を地域に生かす取り組みについては、「施策No.15 生涯学習の推進」に含まれていますが、今後、いただきましたご意見を参考に、具体的な取り組みの検討を進めてまいります。</p>

■ 第 4 章 分野別計画 基本目標 3「潤い・快適・活力」のにぎわいのまち について（16 件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
18	参考	56、62	「河川流域整備」への市民参画（人育て）の普及促進について	地域資源を活かしたまちづくりが重要と考えてお

			<p>改定時期を迎えている「河内長野市の森林プラン」をしっかりと総括し、アドプトリバーの活動とも統合し、里山整備と保全を体験学習と市民協働（つながりづくり）の場として活用する。河内長野は森林と農の活用が生き残る道だと考える。</p> <p>施策24：魅力的な景観の形成 施策21：自然環境の保全・活用に関連</p> <p>※河内長野市の森林プランは、ボリュームは多いが中身が乏しいように感じる。</p> <p>「木根館」の運営を民間に委ねるという話もあると聞いている、もっとやる気のある市民が参画できる場を創って公募すべきでは！？</p> <p>もっと外の情報を知って市の取り組みに反映できないのかと何時も感じる。例えば、お隣の泉佐野市で、泉佐野の森づくり（公園づくり）が市民ボランティアの手で進められている。</p> <p>「里山資本主義」的な考え方と取り組みを市のサブシステムとして採り入れることが、ひとつの「最適解」ではないかと思っている。</p>	<p>り、ご意見いただいた景観形成や自然環境の保全・活用について、市民との協働を進めながら取り組んでいきます。</p> <p>森林プランについては、見直しを予定しており、いただいたご意見を参考に検討を進めていきます。</p>
19	参考	58	<p>府内随一の滝畑ダム湖にソーラー発電を設ける。</p>	<p>ご意見については、本市の財政事情や費用対効果などの点から現時点では困難であると考えておりますが、「施策No.22 循環型社会の構築」の自然エネルギーの普及・啓発の検討における今後の参考とさせていただきます。</p>
20	参考	62	<p>施策24、魅力的な景観の形成について</p> <p>ここでは、「きれいなまちづくり条例」に基づき、清潔で美しい街づくりや緑豊かなまちづくりなどの推進を図っている。としている</p>	<p>「きれいなまちづくり条例」の推進を含めた取り組みについて、ご意見を参考にしながら、庁内の連携を図り、市としての統一的な方向性を共有しつつ、市民</p>

			<p>が、現状として、ラブリーホール前、長野中学校前、南花台のメイン道路などは、見るも哀れに刈り込まれた街路樹が存在している。また清見台においても、必要のない街路樹の剪定が行われている。さらに言うならば、河内長野駅前でも三日市町駅前でも、市の玄関でありながら、2か月以上にわたって、草が伸び放題となっている。</p> <p>これらについて考えてみるとその担当は、ここに挙げられている担当課ではなく、交通政策課が担当しており、正直、街の景観、街路の在り方について解っていない者が担当しているように思われる。</p> <p>ここで言いたいことは、街の景観等の環境計画については、市の魅力をアピールし、新しい住民を勧誘する大切な事象であることから、適当に担当を当てるのではなく、全てについて統合し、管理運営する必要があるのではないかと言いたい。</p>	との協働により、市の魅力をさらに高める景観形成を図ってまいります。
21	参考	62、80	<p>施策16、歴史文化遺産の保存・活用について</p> <p>ここにも書いているように、河内長野市の歴史文化遺産は、全国に誇れる資産です。こうした貴重な活性化資源をここでは単に市民のための都市づくりに供するためのものとして扱っている。</p> <p>こうした資産については、市の重要な観光資源となるものであり、また、新規居住希望者の募集にとって、市の魅力発信に重要な媒体でもある。</p> <p>ここでは、こうした資源と活動を教育委員会のもので扱うだけでなく、まちづくり、観光政策、生涯学習等広く利用・活用するため、現状の「くろまる館」に閉じ込めるのではなく、ノバティやフォレストなどに展示場を設けるなど、積極的な開放施策を希望したい。</p>	<p>施策No.16については、これまで以上に歴史文化遺産の「活用」に重点を置いており、「施策No.24 魅力的な景観の形成」による歴史的景観の視点や、「施策No.33 観光の振興」による地域資源を活かした観光振興の視点等と併せて推進していきます。いただいたご意見を参考に、さらに多面的な活用を図ってまいります。</p>

22	変更	66、 78、80	<p>人口減少抑制戦略の項目別効果の想定の明確化～最重要項目に絞って提案</p> <p>本計画には、次の記述がある。</p> <p>7 ページ 「地域圏の形成」の中で「活力ゾーン」を設定し、企業誘致、雇用の創出を・・</p> <p>9 ページ 「住環境」の中でまちづくりについて述べているが人口減少抑制効果に触れず</p> <p>10 ページ 「産業、森の土地利用」でも具体的な人口抑制効果について触れていない。</p> <p>11 ページ 「財政運営の考え方」の中で、定住・転入の促進や産業振興等により市税収入増を図るとの記載はあるが、人口減少抑制効果には触れていない。</p> <p>以上のように、定住人口増、労働人口増、入込人口増等の市財政を潤す政策について、総花的、抽象的に種々の戦略について記されているが、今後の市にとって最も重要と思われる「定住人口の確保・健全財政」についての数量的な記載が殆ど見られない。</p> <p>人口増戦略について次のとおり提案する。</p> <p>1 定住人口増への挑戦</p> <p>(1) なんば、あべの等の都心に近い「ベッドタウン」として再挑戦する。</p> <p>① 都心に近く便利、環境抜群(自然・住・子育て・安心・安全・文化)</p> <p>② 安価な広い宅地(空地、空き家の利用)</p> <p>③ 菜園付き健康・奥河内材使用のエコ木造住宅</p> <p>④ 駅近(えきちか)子ども預かり所開設</p>	<p>本計画に示す将来の定住人口については、総合計画の終了年度である平成 38 年 3 月末の人口を 96,742 人と推計しておりますが、出生率の向上や転出抑制・転入促進、健康づくりなどの施策を進めることで、人口を 10 万人と想定しています。</p> <p>なお、想定人口の根拠については、以下の通り明記することとします。</p> <p>【想定人口の設定根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率を段階的に上昇させ、平成 37(2025)年で 1.80 と設定。</li> <li>・若い世代の転出超過の改善をめざし、子育て世代(25～39 歳)の移動率を 1/2 に縮小して設定。</li> <li>・府内トップレベルの生存率をめざし、高齢層の数値を設定。</li> </ul> <p>なお、財政の数量的な記載につきましては、「第 3 章 財政計画」において、「歳入は定住人口の想定を考慮した上で一定の推計を行っていますが、歳出は社会経済動向や国・府の方針など、予測が困難な要因が大きいことから、収支の均衡という前提に立ち、歳入の範囲内で歳出予算を組むことを財政運営の基本とします」としております。</p> <p>いただいたご意見の(1)について、主に「施策 No. 26 住宅環境の充実」において、本市の住環境の魅力を高める取り組みを行うこととしており、ご意見を参考とさせていただきます。</p>
----	----	--------------	--	--

		<p>未就学児童の預かり所を設置によって子育て中の家庭を市に呼込む。子育てセンター「あいく」その他「駅近」で、なれば、阿倍野等の都心に出勤する子育て中の人から未就学児童・乳幼児を預かる施設を作って子育て支援できないでしょうか。民間活用も</p> <p>(2)市職員の市内定住・転入の促進</p> <p>①市職員が市外へ転出するのを抑止する、②市内に転入して来る、これらの動機付けはできないものか。</p> <p>(3)転入者の固定資産税(新築建物のみ)の減免措置</p> <p>新規に転入して来て建物を建築した者に、建物に対する固定資産税を数年免除する措置(土地には通常課税)は取れないもののでしょうか。数年間建物の税収が入らないだけで、免除期間の到来後は市の大きな収入源になると思います。</p> <p>(4)農林業の振興による就業人口の増加促進</p> <p>当市には土地(府下3位)、良質のスギ、ヒノキの森林資源が豊富にある。この資源を活用した、すそ野の広い林業を振興させ、「林業のまち河内長野」を都市ブランドとする。スギ・ひのき等の建築用材の育成、製林業、木造建築業、不動産業、木製家具、木製工芸、バイオマス等の産業が考えられる。</p> <p>★現在林業に携わっている人は、極めて希少であるが(48人前後)、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けての新国立競技場も木造構造が考えられており、ログハウス等健康的なエコな木造住宅に挑戦しては。</p> <p>(5)「観光業について」</p> <p>点から線、線から面の観光スポットを繋ぐ道路、宿泊施設な</p>	<p>(2)について、市として職員の居住地を義務付けることは困難であると考えられますが、様々な機会を活用して、意識づけを行っていくことは必要と考えています。</p> <p>(3)について、「施策No.26 住宅環境の充実」において、定住・転入施策に取り組むこととしており、ご意見については参考とさせていただきます。</p> <p>(4)について、「施策No.32 農林業の振興」において、農林産物のブランド化に取り組むこととしており、ご意見については参考とさせていただきます。</p> <p>(5)について、宿泊施設の不足や、観光資源の点在については、課題と捉えており、「施策No.33 観光の振興」において、点在する地域資源を結びつけることにより交流人口の増加を図り、回遊性・滞留性を高めるソフト事業の充実に取り組み、観光振興を進めていきたいと考えています。</p>
--	--	---	--

			<p>どのインフラが必要であるが、これらの整備には多額の資金が必要なため多くを期待できない。</p> <p>関西サイクルスポーツセンター、滝畑ダム湖、多くの寺院、花の文化園、くろまろの郷等を活用した、ウォーキング、サイクリング、カヤック等の来訪者の増加策は可能であるが、これらの観光施設は散在しており、また、宿泊施設の少ないことから旅客の滞在期間・時間が短く、メインの産業振興に位置付けるのは無理と思われる。</p>	
23	参考	64	<p>1. まちづくりの目標(将来都市像)が抽象的で欲張りであることから、諸施策(計画)が総花的で、多岐にわたりすぎておるため、喫緊の課題が埋没し、計画自体も具体性に欠けている。</p> <p>2. 第4次総合計画の総括も、個々の達成状況に具体性が無く、何がどの程度でき、できなかったのか、判然としていない。結果、その間、人口の転出が転入を上回るなど、まちの魅力・価値が高まったとは言えない。</p> <p>3. そこで、本計画の諸施策は、全て行政の責務であることを自覚し、個々管理する一方、選択と集中の観点から、「魅力あるまちづくりに向けた最重要課題」を浮き彫りにし、そこに経営資源を集中、達成に向け、スケジュール管理すること必須である。</p> <p>4. 最重要課題の一つとして次に提言する。</p> <p>①市民ニーズが高く、市の価値を高める施策として「当市の玄関口である河内長野駅前周辺の市街地の整備・活性化」を図り、「まちの顔」をつくる。</p> <p>ア. 都市計画道路計画中止により、お先真っ暗な周辺歩道を安全</p>	<p>1について、将来都市像は、学識経験者、関係団体、市民代表等からなる総合計画審議会において検討を重ねたものであり、まちづくり全体の方向性を示すものです。この将来都市像をめざし、各分野における取り組みを行っていくこととしています。</p> <p>2について、本計画を策定するにあたり、各分野について第4次総合計画の評価・検証を行っており、その結果を集約し、現状・課題、方向性を記載したものを公表しています。また、総合計画審議会において第4次総合計画の検証を行い、議論を重ねながら策定を進めてきました。</p> <p>3、4の①について、「施策No.25 市街地整備の推進」において河内長野駅周辺を含む中心市街地の整備に関する取り組みを記載しており、ご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>4の②について、将来都市像が示されている基本構想については、総合計画審議会からの答申を踏まえ、</p>

			<p>安心なものとする。</p> <p>イ. 防災・景観面から国が推進しようとしている「無電柱化」を推進し、北高南低を擁護されている南部大阪の目玉施策とする。</p> <p>ウ. 計画されている「ネットワーク型コンパクトシティ」は、諸施設が分散している当市の弱点を是とした発想で、革新性が無く「絵に描いた餅」に終わろう。</p> <p>「生活に必要な機能を集積、中心市街地の活性化を図り、歩いて暮らせるまち」づくりを目指す「本来のコンパクトシティ」に焦点をあてるべきである。</p> <p>②また、将来都市像を「暮らしやすく愛着のもてるまち」と簡潔にわかりやすくする。他に、掲げたいものがあれば、副題として可。</p>	<p>平成 27 年 9 月議会で議決されておりますので、変更はいたしません。ご意見いただいた暮らしやすさ、市民の愛着については、本市がめざすべき目標として含まれていると考えます。</p>
24	包含	70	<p>大阪府下で少子化率、高齢化率、転出率がトップと言う榮譽に浴している当市ですが、市の第 5 次総合計画（素案）では、平成 37 年度の想定人口を 10 万人とすることによる施策が縷々述べられています。第 1 次から今回の第 5 次総合計画で当初より欠けているのが高速道路に対する当市の意気込みです。</p> <p>特に、当市に於ける地政学的位置を考えれば、大阪市、堺市、京阪神、京奈和へのアクセス道路を未誘致（高速道路）未接続に過ごしてきた結果にすぎません。過去の山間部（開発団地人口増加）に気を取られ、市の発展・維持・継続に何が必要かと言う根本的施策を怠ったことです。</p> <p>私は、過去の商社勤めの折に、ドイツ、アメリカに駐在しておりました。ドイツのアウトバーン（高速道路）は国内のすべての都市</p>	<p>いただいたご意見については、「施策No.28 道路基盤の整備」の主な取り組み「1. 道路網の整備」における広域的な幹線道路等の整備促進に含まれます。高速道路につきましては、平成 27 年 12 月に大阪南部高速道路事業化促進協議会が発足し、建設誘致を進めることとしており、今後もアクセス道路の整備を含めて、広域的な利便性の拡充を図る取り組みを推進してまいります。</p>

			<p>を繋ぎ、その長さは地球の7周半になっています。(これが、EC内でのドイツ経済・文化・外交・国防の源泉です。)</p> <p>アメリカにおいては、ハイウェイ（高速道路）が東西南北に走っていて、世界の流通経路を網羅しています。*「すべての道はローマに通じる」が欧米の理念です。</p> <p>奥河内と称する本市にとって、企業・大学誘致、人口10万人維持、学校統合、コンパクトシティ等、施策の提案は道路（高速を含む）整備と並行しながらだと思われま。</p> <p>最後に、日本の高速道路は海外から「Pay Way」と呼ばれています。(独・米は無料)</p>	
25	参考	70	<p>施策28、道路基盤の整備について</p> <p>近代都市において道路交通の整備は重要課題の一つである。しかし、こうした中で、広域道路の整備は、河内長野のような地方都市では、工業製品の製作も少なく、サービス産業も少ないことから、それを利用する地元企業の利用率が高い場合は極めて有用なものであるが、そうで無い場合、道路は、他市からの通過交通が多いか、市民の他都市訪問利用がほとんどとなり、現状のような堺、和泉の大規模商業への消費の流出の道具となるモノとなり、商業競争としては地元にとってマイナスに働き、大きい損失となるものである。</p> <p>今が、地元の充実を図らねばならない時代であることを考えれば、大きい出費を伴うこうした事業は縮小し、市の活性化に寄与する駅前開発やパーキングの開発に費用を回すことを望みたい。</p>	<p>道路基盤の整備については、市内外の移動の利便性の向上、ネットワーク化を図ることを目的としており、その必要度に応じて進めていくものと考えています。今後、いただいたご意見を参考に、公共交通との連携も含めた効率的・効果的な整備を図ります。</p>
26	参考	72	<p>市の人口維持、増加を促す上で市内の交通の利便性は非常に重要な要因の一つです。現在の交通網は、南海高野線が市内を縦断し堺方面へ、近鉄長野線は、大阪中心部へ繋がっています。しかし、集</p>	<p>ご意見については、本市の財政事情や費用対効果などの点から現時点では困難であると考えておりますが、ご意見の通り、交通利便性の向上は非常に必要な</p>

		<p>約連携都市を目指す本市の計画では、上記の交通機関では不十分です。特に市内を移動するのに適した交通機関がバス主体なのは改善すべきです。そのためにも、ライトレール(路面電車)などの活用が必要です。とりわけ、南花台の団地から三日市町駅までの交通がバスと車しかなく、利用者の負担が大きいといえます。また、三日市町から河内長野、千代田など主要駅間にもライトレールを導入することで、市外通勤客と市内移動者を分離することができ、鉄道の利便を増進できると思います。さらに、ライトレールは、バスなどの少量輸送機関と違い停留所近辺の経済発展を促進する効果が鉄道よりは低いですが郊外部の商店街などを活性化させるのには十分な効果があります。</p> <p>またライトレールは、運行間隔が場合によりますが5分程度で運行でき、乗客の待ち時間を削減することができ、停留所は、低床車両(LRV)を使うことでバリアフリー対策も実行できます。そして、バスは、交通渋滞による遅延が頻発する可能性があります。ライトレールは専用軌道を走るため渋滞の影響を受けにくく、信頼性が高い交通機関です。敷設費用はバス路線新設費用などより高いですが、導入することで得られる利益は、バスなどのそれよりも高くなると思います。人口11万人程度の街に路面電車なんて、と思いますが、ライトレールは人口10万人に程度の地方の街にこそ必要な交通機関です。</p>	<p>課題と考えており、「施策No.29 公共交通の充実」を検討する中で、より良い交通のあり方について検討を進めていきたいと考えております。</p>
27	参考	<p>76 政策10 地域産業の振興について意見</p> <p>地域産業の育成により働く所を作り、生活の基盤を作ることが人を集める要素だと考えます。そこで本市の自然を活用した下記の産業を提案します。</p>	<p>地域の特性である豊かな資源を活かしながら商工業の振興を図ることが重要と考えており、いただいたご意見については、「施策No.31 商工業の振興」を進める上での参考として検討を進めてまいります。また、間</p>

			<p style="text-align: center;">記</p> <p>① 水の活用 森を整備して良質の水を確保することにより良質のお米を造り、その水を活用して嘗て秀吉に献上したようなお酒を造るために酒造工場の創設</p> <p>② 植物の活用 薬師山延命寺の歴史を考えると当地は薬草の宝庫であり、薬草の栽培に適した地域だと思われます。よって薬草造りの植物工場創設</p> <p>③ 間伐材の活用 無限の間伐材を保有する当地はペレットとしてエネルギー開発を行う。例えば（イ）大小の発電機の開発、（ロ）家庭用ストーブの開発などを目的とした自家発電工場の創設</p>	<p>伐材の利用については、「施策No.22 循環型社会の構築」の主な取り組み「2. 地球温暖化対策の推進」の「バイオマスの利用促進」を検討する上での今後の参考とさせていただきます。</p>
28	参考	78	<p>「奥河内くろまるの郷」をぜひとも道の駅に指定登録していただきたい。</p>	<p>「奥河内くろまるの郷」につきましては、道の駅の指定登録への取り組みをはじめ、施設のさらなる利用促進を図ってまいります。</p>
29	参考	78	<p>施策32、農林業の振興</p> <p>ここでは、この計画書における方向性、取組み等について特別な問題を指摘するものではない。</p> <p>ただ、この書類において、全く理解できないのは、「住みよさ指標」における2つの数値であり、どうしてこうした数字がはじきだされるのか疑問を呈するものである。</p> <p>① 農業従事者数（兼業農家を含む） この数値については、今までの農家数の推移を考えると全く矛盾を感じるものであり、その根拠を示す必要があると思う。</p>	<p>① について、本市では農業従事者が減少し続けており、産業としての農業の維持が困難となる状況も考えられることから、現状の維持を目標としています。新規就農を含めた人材育成・確保による目標の実現をめざします。</p> <p>② について、現状値（平成27年3月時点）での数値が、平成26年11月に開設した「地域活性・交流拠点（くろまるの郷）」の影響を一部しか反映できていないことから、中間値や目標値と大きな差が生じ</p>

			<p>② 朝市・直売所の売り上げ</p> <p>この数値については、今後の売り上げとして飛躍的な伸長を示しているが、これはどういう政策を持って達成するのが疑問であり、詳しく示してほしい。また、この数値の示しているものは、「くろまろの郷」における【あすかてくるで河内長野店】を含められていると思われるものであり、そうであれば、この数値の示しているものは、地元産品によるものではないので農林業の数値とはならないものであり、取り下げるべきである。</p> <p>以上の2つの数値によって云いたいことは、こうした不明瞭な数値を示すことは、その数値が実際以上に大きいものであれば、それは、その後の予算配分に影響するものであり、無駄遣いを助長することになる。従って、ここでは、明瞭な数値を示してほしい。</p>	<p>ています。今後、地域活性・交流拠点（くろまろの郷）」を中心として、営農支援を充実し、地産地消を推進してまいりたいと考えています。</p>
30	参考	78	<p>施策No.32 農林業の振興</p> <p>取り組み内容1</p> <p>多様な人材とありますが、どこかに「女性」を明記してほしいです。「女性をはじめ多様な人材」。</p> <p>農業の現場では多くの女性たちが力を発揮していますが、女性の知恵を活かせる場はまだまだ少なく、意見を出す場も多くはありません。農協の会議には男性の出席者が多いのが現状です。女性ならではの感性、視点が生まれるアイデアが活用されるような経営者として、農林の新興に参画していくことが必要なのでは。</p>	<p>「多様な人材」について、女性をはじめ、若者や新規就農者など、すべてを含んでいます。本基本計画では、農林業の振興において、女性について明記はしませんが、施策を推進していくにあたり重要な視点ですので、今後の参考として検討を進めてまいります。</p>
31	参考	78	<p>山間部分で手を焼いている猪を料理して出す店を作って河内長野の特産品とする。</p>	<p>いただいたご意見については、「施策No.32 農林業の振興」の鳥獣被害対策の推進の中で、今後の参考として検討を進めてまいります。</p>

32	参考	80	<p>最近、観光ボランティア倶楽部に団体のお客様からのガイドの申し込みが多くなってきていますが、問題点は団体の方が利用されている大型バスの駐車場がないことです。観心寺などお寺拝観をされたあと、昼食を食べるために駅周辺に来られた時、あるいは駅周辺の古い街並みを歩いて見学されるときバスの駐車場に困っています。</p> <p>現在はお客様を駅近くで降ろし、時間を見計らってバスが迎えにくるとか、郊外の大型バスが駐車できるところで昼食してもらうようお願いしていますが、駅周辺でバスがとめることができれば、駅周辺施設への利用も増え、店舗も潤うと思われれます。</p> <p>その駐車場の第一候補が消防署跡です。駅からもちかいし、国道にも面しているので、ドライバーも迷うことなく利用にも便利だし、お客様にとっても観光のベースになると思います。そしてそこにお土産など販売所があれば、河内長野観光のベースにもなるし、ランドマークにもなり絶好のPRができると思います。</p> <p>ぜひ消防署跡地を観光バスなどの駐車場になるよう検討ください。</p>	<p>いただいたご意見については、「施策No.33 観光の振興」の主な取り組み「2. 観光振興のための仕組みづくり」に含まれます。観光バスの駐車スペースについては、本市の課題として認識しており、いただいたご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
33	参考	80	<p>施策33、観光の振興について</p> <p>観光については、中国人、韓国人の来日をはじめとして、今や、ブームと言える状況を呈している。こうした中で、一部においては、宿泊所の不足が言われてはいるが、各地とも滞在客・宿泊客、日帰り客の区別なく客を取り合う産業となって来ている。</p> <p>こうした中において、河内長野観光の現状はどうかと言うと、大阪府のリゾートゾーンと言う恵まれた場所にあり、この計画書にも多く書いているような極めて多くの観光資源を有しながら、そうし</p>	<p>いただいたご意見については、「施策No.33 観光の振興」の主な取り組み「2. 観光振興のための仕組みづくり」にあるように、外国人の対応も含めた受け入れ体制の整備を図り、観光関連産業との連携を強化し、観光振興を推進したいと考えております。</p> <p>「観光入込客数」については、観光ニーズが多様化するなか、限られた財源で、これまでのレジャー型観光だけでなく、体験型観光にシフトし、他との差別化</p>

		<p>たものの観光アピールは十分なものでなく、観光サービス施設に至っては、無いに等しい状態となっている。</p> <p>今、国民が見ている観光施設の状況はディズニーランドや、ユニバーサルスタジオを見るまでもなく、旭山動物園や京都水族館・海遊館に見られるように客に展示物を如何に面白く見せるかをテーマにした競争状態であり、少々のことでは、興味を示さなくなっている。</p> <p>そこで河内長野の観光の在り方であるが、この計画書の主な取り組みとしての印象は、現状の施策の追認と受け取れるものであり、今後どうするかと言う視点が示されていない。観光施設の整備のような考え方が述べられていないのは、こうした世の中の風潮から逃げていることであり、そこに積極性が欠落しているように感じられる。</p> <p>具体的に言えば、「花の文化園」は現状で良いのか（サプライズが無い）。金剛山、岩湧山登山客に対する対応は何もしなくて良いのか（駅前にゆっくりと休んでいくところが無い）。お寺への参拝客に対するサービスはどうするのか（お昼を食べることも、土産を買うことも出来ない）。</p> <p>こうした不足ごとの多い観光政策であっては、「七つのK」を重要施策と掲げていないのも同様であることから、今一度、具体事例を検討し、計画を作ってほしい。</p> <p>（計画書の記述について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住みよさの指標の中の「観光入込客数」について、将来目標数がなぜ、こんなに低いのか。これでは、何もしなくて良い数値と言える。（花の文化園の改変だけでも、20万人の増加が可能</li> </ul>	<p>を図りたいと考えており、その考え方に基づいた数値を示したことをご理解願います。</p> <p>「観光産業の金額」については、金額を具体化することが非常に困難であることから、金額を示すことができないことをご理解願います。</p> <p>イベント等の整理につきましては、いただいたご意見を今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
--	--	---	--

		<p>と思う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光産業の金額も欲しい。</li> </ul> <p>(現状のイベント施策について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの例として、毎年恒例の「高野街道まつり」であるが、現状の運営は、市民の目としては、市が行っているように見えているが、主催は、高野街道まつり実行委員会、宿場町復活実行委員会、実施運営は、市も加わって頂いているが、「にぎわい河内長野 21」「三日市商店会」「かわちながの観光ボランティア倶楽部」「酒蔵どおりプロジェクト」が主体となって行っているものであり、実態として、「酒蔵どおりプロジェクト」の完全離別、「フォレスト三日市商店会」の不完全融合等から、費用計画の不安定性などの問題もあり、内情としては、いつ中止にしてもおかしくない状態である。</li> <li>・他都市の例を見た場合、これだけの市民イベント（第9回を迎えている）であれば、市が、その主体となり、費用等の安定性の高いイベント、内容の充実した祭りとするものである。</li> <li>・ここに記したのは、一つの例であるが、その他のイベントについても、その多くが、やればよい程度のレベルであり、市民が十分に喜べないものとなっているように思う。今後は、イベント等の整理を行い、費用の集約をし、市が誇れるイベントを作るようにして欲しい。</li> </ul>	
--	--	---	--

■ 第4章 分野別計画 包括的政策 都市魅力の創造と効果的な発信について（1件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
34	参考	84	施策35 36関連	都市ブランドについては、現在、市民と共に方針の

		<p>「都市ブランドづくり」について</p> <p>現在、市では新たなブランドづくりの取り組みを進めているが、私の意見はいろんな場面で市が出されている「市民協働」を極めて、これを都市ブランドにする。つまり、今ある取り組みを徹底して「市民協働のまち」としてブランド化してはどうか！？という意見です。</p> <p>「協働」の категорияは・市民と行政の間、・市民と市民の間、・行政内、があり、そのそれぞれが有機的につながるように施策を講じる。</p> <p>今、市が進めている「地域まちづくり協議会」の取り組みが施策としてのひとつの核になると考えています。この目標を核に多くの施策を総合して、その目標を達成できるようにする。</p>	<p>検討を行っており、引き続き検討していく予定です。</p> <p>その中で、いただいたご意見を参考に、より効果的な方策について検討を進めてまいります。</p>
--	--	---	---

■ 第4章 分野別計画 まちづくりを支える政策について（4件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
35	参考	86	<p>目標へ近づける為には、市民ひとり一人がどれだけ関心を持つことができるかだと思います。特に子育て世代は、自分たちの現在（いま）の生活にいっぱい、近い将来に自身に関わってくる、地域コミュニティ、自主防災、自身の健康に気を配る余裕はありません。</p> <p>若い子育て世代の関心が高い、子どもの教育現場や子どもを通して、自主防災や幅広い世代との地域コミュニティなどに参加を誘い関連させて興味をもってもらえる工夫が必要だと思います。</p> <p>また、施策を進める為の地域リーダーを養成し、有償ボランティアでの活動の推進を検討欲しい。地域活動などに興味・関心があっても、無償では家族や周囲の理解を得られず、自身の気持ち的にも続けていくことは現実的に難しくなります。この市民活動の有償化</p>	<p>いただいたご意見については、「施策No.36 協働の推進と地域コミュニティの活性化」において、若い世代の地域参加や地域リーダーの養成、有償ボランティア活動の推進の検討など、まちづくりの多様な人材の育成を進める上での参考としてまいります。</p>

			への部分を、応援・補助ではなく、推進・実行を行政で担って頂ければ、女性の働き方も変わり、ワークライフバランスや子育て関連など、目標に近づく動きができるのではないかと思います。正直なところ、やはり「お金」が肝です。現在（いま）の生活だけでなく活動の中で将来も見えてこそ、市民ひとり一人が年齢、性別に関わりなく自身の住む地域・周囲の人々に関心を持てるのではないのでしょうか。	
36	参考	86	<p>「地域まちづくり協議会」の取り組み（子育て）について          施策36 関連</p> <p>「市民協働」の場づくりの施策として進められているが、その成否を分けるのは「人」です。しかし現状をみると、ほとんどが地域任せになっているように思う。市は「くろまる塾」をその施策と位置づけ「地域まちづくり講座」を盛り込んでいる。この取り組みはあくまでも不特定多数の市民の趣味の延長上にある生涯学習の場であり、地域を担う人づくりの場としては不十分と言わざるを得ない。私は行政がサポートし、将来、市民が主体となって運営する「地域まちづくり大学」の創設を提案します。そのひとつのモデルとして、滋賀県米原市の「ルッチまちづくり大学」があり、今年から改編されて3年間掛けて地域で活動する人材を育てようとする施策です。カリキュラムもその趣旨に沿ったものとなっていることを現地取材で確認できた。ここに各校区地域まちづくり協議会から人を送り込んで、人材を育成する仕組みを現在の助成金を活用して始めるようにできればと考えています。</p>	<p>ご意見について、「施策No.36 協働の推進と地域コミュニティの活性化」において、主な取り組み「3. 協働の促進」の「協働のまちづくりの推進のための人材育成の充実」に含まれます。また、「施策No.15 生涯学習の推進」において、学んだ成果を地域に生かす取り組みを進めるため、地域活動団体やボランティアとのさらなる協働を図ります。</p> <p>今後、いただきましたご意見を参考に、具体的な取り組みの検討を進めてまいります。</p>
37	参考	86	<p>「地域まちづくり協議会」への対応について          「第5次総合計画」に「地域別計画」が盛り込まれることになり、</p>	<p>いただいたご意見については、「施策No.36 協働の推進と地域コミュニティの活性化」において、主な取り</p>

		<p>各小学校区で活動計画づくりにはじまる取り組みがスタートする。その取り組みをサポートする行政サイドの施策として、以下2点の促進内容を加えるよう提案する。</p> <p>その1:「活動の拠点づくり」に対する支援を強化すること</p> <p>各小学校区の現状を調査し、活動するメンバーが常時集える場づくりを支援する。小学校の空き教室の活用が進まない現状の改善が必要です。このスペースがあれば他の活動組織も利用できるようになる。ここ以外の候補としては公民館を協議会で自主運営できるようにする等、運営の仕組みを変えるという難しい仕事を伴うが、できなくはない。</p> <p>その2:「各地域をつなぐ情報のネットワーク化」の仕組みを構築すること</p> <p>各協議会を地域情報のサテライトとして、それぞれの取り組みや活動する組織とのつながりを促進する施策として有効と考える。さらに将来「地域情報バンク」に発展させることも可能になるのでは。</p>	<p>組み「4. コミュニティ活動の促進」に含まれていますが、今後、いただきましたご意見を参考に、具体的な取り組みの検討を進めてまいります。</p>	
38	参考	88	<p>分野別計画について(12~91 ページ)</p> <p>(1) いろいろな「取組み」および「担当部門」が整理されており有益である。</p> <p>(2) 掲げられた「取組み内容」ごとに期限、目標を定めて効果を上げることが望まれる。</p> <p>(3) 効果的・効率的な行政運営の推進</p> <p>計画的な行政運営の推進、進行管理の仕組みや推進体制の構築、行政サービスの質的充実、行政評価を活用した行政運営、職員の能力開発、行政の簡素化などについて触れら</p>	<p>(2) について、基本計画に基づき策定する実施計画においては、期限や目標を定め、施策・事業に取り組んでいくこととしています。</p> <p>(3) については、「施策No.37 効果的・効率的な行政運営の推進」として、これまでも、効果的・効率的な行政運営の確立と人材の育成を目指して職員提案制度を実施するとともに、期待する職員像に向けて職員を育成する制度として人事評価制度の運用を行っており、平成28年度より人事評価の結果の給与反映を全</p>

		<p>れており、有意義である。</p> <p>以上のほか、職務改善提案方式の採用、評価制度等のインセンティブに配慮した職員のやる気を引き出す制度が必要ではないでしょうか。</p>	<p>職員に拡大いたします。今後、いただいたご意見を参考に、さらなる充実を図ってまいります。</p>
--	--	---	--

■ 第5章 地域別計画について（4件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
39	参考	99	<p>小山田地区まちづくりについて</p> <p>寺ヶ池公園をまちづくりの拠点にすることは大変結構ですが現時点では地域住民（自治会）はまちづくりへの関心も認識も無いに等しいと思われる。各地域共具体的に目標なり実施要領をはっきり市民（住民）に知らせる必要があるのでは、私は寺ヶ池公園の大美化運動を提唱したい。桜か紅葉かあやめ、しょうぶか緑と自然美を求めて各地から大勢の方がやってくる。少なくとも10年計画、移築住民がまずボランティアで参加する。</p> <p>掃除、草刈り等はシルバー人材センターに頼らず住民の手で、勿論優秀な技術指導者と金がいることは当然であります。まちづくり、地方創生について河内長野市議会で侃侃諤諤（かんかんがくがく）の意見がないのが不思議です。</p>	<p>小山田地区をはじめ、各地区への地域別計画の周知及び地域づくりへの市民の主体的な参加は重要であると考えています。今回の地域別計画は検討会議等の場において、市民参加によりご検討いただきつくりあげたものであり、今後はこの計画を基本としつつ、いただいたご意見を踏まえ、地域別計画の実行に向けて地域住民への周知・啓発、参加促進に努めてまいります。</p>
40	参考	105	<p>地域別計画 地域づくりの目標と取り組み</p> <p>絆つながるまちづくりについて</p> <p>川上地区の状況については、地区の特徴にあるように、歴史遺産や文化財の存在。自然が豊かでハイキングに最適な場所が多い。と示しているように、市内でも最良の観光地区と言える地区である。</p> <p>こうしたベースに対して、上記項目における取組において、観光</p>	<p>今回の地域別計画は検討会議等の場において、市民参加によりご検討いただきつくりあげたものであり、今後はこの計画を基本としつつ、いただいたご意見を踏まえ、地域と行政との連携と役割分担を図りながら、地域別計画の実行に取り組んでまいります。</p>

			客等の来街者に対する交流の考え方が欠落しているのは不備である。 地域のワークショップでも提案した事であり、是非取り上げてほしい。	
41	変更	116	地域別計画(92~121 ページ) (1) 石仏小学校区 116~117 ページ 観光資源・特産品・施設等の欄に、次の5項目を入れて欲しい。 庚申寺、石仏寺、弘法大師の井戸、石仏城址、(伝)左近城址	地域資源については、地域別計画の検討会議の場において、市民参加によりご検討いただき記載したものです。ご意見いただいた項目についても地域資源を踏まえた取り組みがすでに進められていることから、新たに追加します。
42	参考	121	美加の台には9つの自治会があり細分化されている。ボランティア活動が活発とあるが自治会によって差異が大きい。適正規模の自治会への再編が必要です。防災面では土砂災害特別警戒区域にかかっている小学校通学路の指定解除対策が優先的に必要です。また、防災の充実とありますが、自治会によって取組の進捗状況が大きく違います。連自治会の下に連合自主防災組織を組織し、財政的支援も連合単位で行えるよう強化が必要です。そして、犬の散歩と通学見守りを結合した「見守り犬」制度も実施する必要があります。夏のまつりは小学校内で行うため酒類販売禁止です、大人も多く参加できるよう特例として解除すべきです。	今回の地域別計画は検討会議等の場において、市民参加によりご検討いただきつくりあげたものであり、今後はこの計画を基本としつつ、いただいたご意見を踏まえ、地域と行政との連携と役割分担を図り、地域の実情に応じながら、地域別計画の実行に取り組んでまいります。

■ その他について（1件）				
番号	分類	ページ	ご意見（の概要）	市の考え方
43	参考	—	「子育て、子育てのまちづくり」 コノミヤ2階コノミヤテラスが完成したら ①毎月1～2回子育てサロンを開催する。	現在、南花台地区では「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業」の取り組みを進めていますが、いただいたご意見については、その取り組みに

		<p>② “あいく”で実施されているファミリーサポート事業をぜひ南花台コノミヤテラスで実施したいです。“あいく”にも行かず、毎々曜日（週に2度くらい）には母親が預けたいときに子供を見てもらえる制度。時間に余裕のある女性の力を借りて。例えば、1時間500円位を支払い見てもらう。事前に申込みし、保険にも入る。</p> <p>③ “あいく”のように遊具を置いて親子で遊べるスペースを設置。ここは当番制でボランティアをして下さる方々に当番割でこれも毎日ではなく、曜日を決めても良いと思います。②の日以外で。以上、あいくの小型版をぜひコノミヤテラスに希望します。</p>	<p>おいて、今後の参考とさせていただきます。</p>
--	--	---	-----------------------------